

令和6年度
事業計画(案)

自 令和6年4月 1日
至 令和7年3月31日

令和6年度事業計画（案）

<基本方針>

古くは平安時代から発展してきた日本の染織文化とその技術は、ライフスタイルの変化に伴う伝統文化の継承困難によりその存続が危ぶまれている。当協会では、染織に関わる所蔵資料やネットワークを通じて、あらゆる方法により一般社会に広く啓発することで染織文化・染織技術への理解と関心を深め、次代に継承していく。

1. 公益事業

「染織文化資源の保全と啓発事業」

■「染織祭」の詳細調査並びに公開（継続事業）

昭和6～26年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」について、その軌跡や社会背景、祭りの効果や影響について詳細調査を行っているが、時代の経過とともに年々情報が少なくなっている。そこで令和5年度より行っている国立国会図書館デジタルコレクションを活用しての資料調査を今年度も引き続き進め、追跡調査が必要な内容は北野裕子氏（龍谷大学 非常勤講師）に依頼して詳しく調査を行う。調査成果は当協会ウェブサイトやSNS『染織祭調査ブログ』、多言語インターネット百科事典『Wikipedia』で情報公開すると共に、北野氏による学術研究機関への論文投稿などを通して、染織祭並びに染織大国・京都の認知に繋げていく。

<今年度調査>

史料からみる調査

- ・国立国会図書館デジタルコレクションを活用した資料調査
(染織祭・行列などをキーワードに行政、団体、新聞、雑誌、人物等から調査)

収蔵品からみる調査

- ・衣装並びに道具類(装飾品や軸等)に関する調査

■染織祭関係史料の公開（継続事業）

当協会が保管する染織祭関係史料データをウェブサイト上で公開する。

<今年度事業>

- ・庶務資料1件(昭和15年 染織講社)
- ・庶務資料1件(昭和16年 染織講社)

■染織技術アーカイブ作成に伴う資料調査（継続事業）

当協会所蔵の全国染織産地合同制作布地で使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容をウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏め、順次公開する。

※染織祭衣装は平成 29 年度をもって全て公開済。

<今年度対象資料>

「全国染織産地合同制作布地」約 10 点

■染織資料並びに画像貸付協力（継続事業）

美術館、出版社等の要請に応じて衣装現物や画像の貸付協力を行う。

【染織祭衣装貸付】

- ・公益性のある美術館、博物館等を対象に貸付。
- ・染織祭衣装については返却後メンテナンス作業が伴うため、貸付期間に関係なく、1 領につき 1 万円のメンテナンス料を徴収する。

【染織祭衣装画像貸付】

- ・当協会の活動目的に合った内容の出版物や番組等を対象に、無償で貸付ける。

■衣装台帳のデータベース化（継続事業における新規取り組み）

令和 5 年度よりデジタル台帳並びに検索フォームの運用を開始し、143 領分の衣装情報を管理しているが、今年度は更に装飾品や道具類のデータベース作成に着手する。

<今年度作業>

装飾品・道具類のデータベース作成 471 件

■染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作（継続事業における新規取り組み）

◎補修・修繕

職人減少などの影響により、装束店の作業の遅れが近年顕著になっていることを受け、今年度より衣装の補修・修繕に関しては下記の通り対応する。

(参考)

衣装の傷み 5 段階評価

- 1・・・新調、又は全くキズ、傷み、汚れが見当たらない状態
- 2・・・単個所に軽い傷み、汚れが有り、修理可能な状態
- 3・・・複数個所に傷み、汚れが有るが、修理可能な状態
- 4・・・複数個所に激しい傷み、汚れが有るが、修理可能な状態
- 5・・・広域に著しい傷みが有り、修理不可能な状態

(傷みの 5 段階評価に基づく今後の対応)

該当衣装	対 応
評価 2～3	協会職員による補修・修繕 (但し、傷みの範囲拡大を防ぐ目的で行う応急処置)
評価 4	補修・修繕は行わず、保全する (技術的価値の高い衣装は、評価 5 と同様レプリカ制作を検討)

(左記を踏まえた今年度対象衣装)

上古時代 衣 ……1、2、4、10、11、12、15、16号

表裳 ……3、8、9、10号 合計 12点

◎レプリカ制作

制作から約90年経つ染織祭衣装143領は、殆ど全ての衣装に著しい経年劣化が見られるが、その中でも「高度な技術が使われており、特に劣化が著しいもの」または「技術の衰退が著しく、近い将来復元制作が出来ない技術が使われているもの」に限定し、レプリカの制作に着手する。制作工程はすべて記録を行い、その内容を『インターネット染織講座』にて公開する。

(今年度対象衣装) ※後記画像参照

1. 江戸時代初期6号「淡浅葱縮緬地柳桜草紙短冊文様振袖」

(※令和6年度(独)日本芸術文化振興基金助成金申請中)

2. 鎌倉時代7号「練緯地段織桜文様被衣」

(※令和6年度(一財)京都染織会館助成金申請予定)

(協力先)

1. 京鹿の子絞振興協同組合／京都刺繍協同組合／京都府織物・機械金属振興センター

2. 京鹿の子絞振興協同組合／京都府織物・機械金属振興センター

(助成金不認可等の場合の対策)

助成金不認可……今年度の制作を断念し、次年度の対象衣装とする。

助成金満額不認可……制作年数を増やし、今年度は認可金額範囲内で制作する。

■染織祭衣装に関する展覧会協力(継続事業における新規取り組み)

◎丹後織物工業組合主催『第75回丹後織物求評会』への出品協力

会期 令和6年10月16日(水)～19日(土)

場所 丹後織物工業組合(京丹后市大宮町)

出品 江戸時代初期2号「白縮緬地竹垣団扇文様振袖」 新旧衣装

◎京鹿の子絞振興協同組合主催『京鹿の子絞工芸展』への出品協力

会期 令和6年12月6日(金)～8日(日)

場所 京都市京セラ美術館(左京区岡崎成勝寺町)

出品 桃山時代4号「紅綸子地雲取鳶亀甲笹松七宝文様打掛」 新旧衣装

■染織技術復興に向けての取組みの検討

全国には過去制作され現在では廃れて継承が途絶えた染織技術が数多くあり、近年その

技術を復興させようという動きが各地で起こりつつある。当協会において技術面等からの復興支援を行い、染織技術の継承と豊かな染織文化の発展に寄与していく。

「染織技術等継承事業」

■染織技術等に関するセミナーの開催（大学生・専門学生～一般）（継続事業）

一般市民に染織技術等を啓発するため、新聞広告やウェブサイト、フェイスブックによる告知にて、年2回セミナーを開催する。

- ・「第1回染織文化セミナー」（11月頃予定）
- ・「第2回染織文化セミナー」（翌年3月頃予定）

■web上での公開講座の開催（一般）（継続事業）

不特定多数の人々に啓発するためウェブサイト上でミニ講座の解説及び動画配信を行う。
（ミニ講座）「きものの歴史」シリーズ／「衣装レプリカ制作工程」シリーズ
（方 法）1回の講座は10分迄とし、オンライン動画共有サービス『YouTube』に動画をアップロードしてリンクを貼り、閲覧を促す。

■染織技術啓発のための小冊子の配布（幼児～小学生）（継続事業における新規取り組み）

きものや染織技術について簡単に解説した小冊子を、七五三詣りなどの着用機会にあわせて配布する。

＜今年度の取り組み＞

平成24年度に制作して以降、再版を続けていた小冊子をリニューアルし、より若年層に馴染みやすい構成や内容に改め制作する。

制作部数 1,500部 /年間配布予定数 500部

「染織技術等継承に関わる助成事業」

■公益事業への助成（継続事業）

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取組みを行う団体の営利目的ではない事業で、次に該当する事業に助成を行う。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

＜今年度継続交付決定事業＞

映画「お蚕さま セヴェンヌ」製作への助成(2年計画の2年目) 50万円

■選考委員の増員（継続事業における新規取り組み）

当協会の助成が妥当か否かを公益性の観点から検討する「第一段階審査(選考委員によるヒアリング)」において、今年度より選考委員を増員して円滑な審査環境を整備する。

(従来委員)

※敬称略／五十音順

北川 満哉	学芸員
北野 裕子	龍谷大学 非常勤講師

(追加委員)

池上 庸之介	(一財)京都染織会館 専務理事
奈良平 宣子	テキスタイルデザイナー
森田 純一郎	俳人／(公社)俳人協会 理事 関西支部長

2. 会員事業

「知識啓発事業」

■セミナーの開催（継続事業）

会員にとって有益となるセミナーの企画開催や、他団体が開催するセミナーなど有益な情報を発信する。

■主要展覧会への招待（継続事業）

会員の知識向上を目的に、京都市内並びに近郊で行われる主要な展覧会の入場券を年 2 回会員に送付し、観覧を促す。

「染織業界発展事業」

■京都ブレス事業（継続事業における新規取り組み）

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた新しい素材の開発を行い、各社にその情報をフィードバックする目的で取り組んでいる。今年度はキュプラにシルクをカバーリングした開発糸を使用して製織とオパール加工に着手し、着物における新しい基布の提案を行う。

■会員のための助成事業（継続事業における新規取り組み）

歴史ある染織技術を継承し、発展することを目的とした当協会会員の事業助成は、令和元年度末に行った資産取崩の影響から脱却していないため今年度も中止とするが、令和7年度以降の再開を目指し、助成環境の整備や助成方法のあり方を再検討する。

■染織技術の復興に関する情報提供並びに市場提案

公益事業で行われる染織技術復興事業の成果に基づき、産地の掘り起こし並びに商品開発の一助となるよう会員に情報提供を行う。

令和6年度 染織祭衣装レプリカ制作予定衣装

江戸時代初期 6号「淡浅葱縮緬地柳桜草紙短冊振袖」(生地：縮緬 技術：手描友禅、刺繍)



鎌倉時代 7号「練緯地段織桜文様被衣」(生地：練緯 技術：段織物、型染)

